

■柴野栗山 儒学者。幕府の儒官として、〈寛政異学の禁〉を主導した。

しばのりつざん

悪鋳再開・・・1736＝ 讃岐国三木郡で、武将をルーツとする柴野平左衛門軌蓮の長男に生まれる。母は葛西氏。

・・・1738＝ 2歳：弟貞毅が誕生。

🚢船出没始 1739＝ 3歳：2番目の弟が誕生するも夭折。

徳川吉宗隠居1745＝ 9歳：

忠臣蔵・・・1748＝12歳：讃岐国高松藩儒後藤芝山に入門、

遠い道を、1日も休まず通い続けるとともに、成績優秀で、

徳川吉宗没・1751＝15歳：

薩摩藩工事・1753＝17歳：塾の大先輩中村反輔に連れられて_江戸に出、昌平黌に入学。

山脇東洋解剖1754＝18歳：

貧困と病苦の中で、10余年の修業をつむ。

かたわら中村蘭林に師事もした。蘭林の左伝の講義の時、最初は学生が沢山いたが、途中で次々と脱落していった。そういう中で栗山だけは、最後までやり通したことで師の目にとまった。病気がちだったので蘭林は、郷に帰れと忠告したが、これにも従わないで勉強した。

大岡忠光没・1760＝24歳：

・・・1763＝27歳：

蘭銭初輸入・1765＝29歳：京都に遊学し、国学を高橋宗直に学ぶ。

明和事件・・・1767＝31歳：*学成って、阿波国徳島藩主蜂須賀氏の儒員となり、世子の侍読となる。京都に住む。この頃「文献通考」の売り物があったが、衣類から家人の装飾品まで質に入れて買い取り、句読を附し、校合が終わるまでは他書を播くことをせず読み耽ったという。

御蔭参流行・1771＝35歳：京都堀川に_塾を開く。

田沼意次老中1772＝36歳：

この京都では西依成斎・赤松檜洲・皆川棋園と親交を持った。当時林家は衰えて、官学の権威は失墜していた。民間では祖棟学派やその他の学派が互いに門戸を争い、学徒はその間にあって向かう所を知らなかった。学者も文芸を弄び自らを修めない者が多く、文教まさに地に墜ちんとしていたが、

・・・1781＝45歳：

田沼意次失脚1786＝50歳：「雑字類編」、

・・・1788＝52歳：*〈寛政の改革〉を始めた老中松平定信に召されて幕府儒官となり、ついで登用された岡田寒泉とともに大学頭林信敬を助けて聖堂での講義に当たり、朱子学振興・異学取締りを建議。「国鑑」編集を命じられる。

初の横綱・・・1789＝53歳：_前年末に京都御所が炎上すると、新皇居造営の幕府側の責任者となり、完成後、光格天皇より褒美。

異学の禁・・・1790＝54歳：*寛政異学の禁の発令は、栗山の推進によるところが大きい。

松平定信引退1793＝57歳：

寒泉は途中で行政官に転じ、その後尾藤二洲・古賀精里が加わって、共に動ずることなく学務を執った。これによって昌平黌の官学としての権威は恢復され、全国から多くの若者たちが集まってくるようになった。栗山の学は博く経世に富み、詩文・筆札ともによく、文に於いて近世有数の大家と称せられた。

蝦夷地直轄始1799＝63歳：

_のち布衣に進み、

_西の丸の侍読となり、將軍世子の教育に当たる。

🚢ノ来航・1804＝68歳：林述斎とともに、ロシア使節対策を幕府に献ずる。雁皮紙の改良・普及に努め始める。

🚢船狼藉・1807＝71歳：城崎温泉に遊んで“玄武洞”を命名。自ら墓誌を撰して、_没した。

「国鑑」[資治概言]「栗山文集」「栗山堂詩集」「上近衛公書」「東奥紀行」。尾藤二洲(良佐)・古賀精里(弥助)と栗山(彦助)を効せて寛政三博士または三助という。